

《問い合わせ先》

第十一管区海上保安部 海洋情報調査課

課長 松本 正純

098-867-0118 (内線 2530)



第十一管区海上保安本部

平成 25 年 5 月 31 日

## 5 力年計画で沖縄本島西部海域の海底地形調査を実施

第十一管区海上保安本部では、本年5月中旬から8月下旬にかけて、所属の測量船「おきしお」を使用し、海底地形調査と潮流観測を実施しています。恩納村一帯はマリンレジャーが盛んなため、細心の注意を払って実施しますので、ご協力下さい。

海底地形調査は、測量船「おきしお」のマルチビーム音響測深機を使用して、5力年計画で名護から糸満にかけての沖縄本島中南部西方海域と慶良間列島海域を調査する予定です。

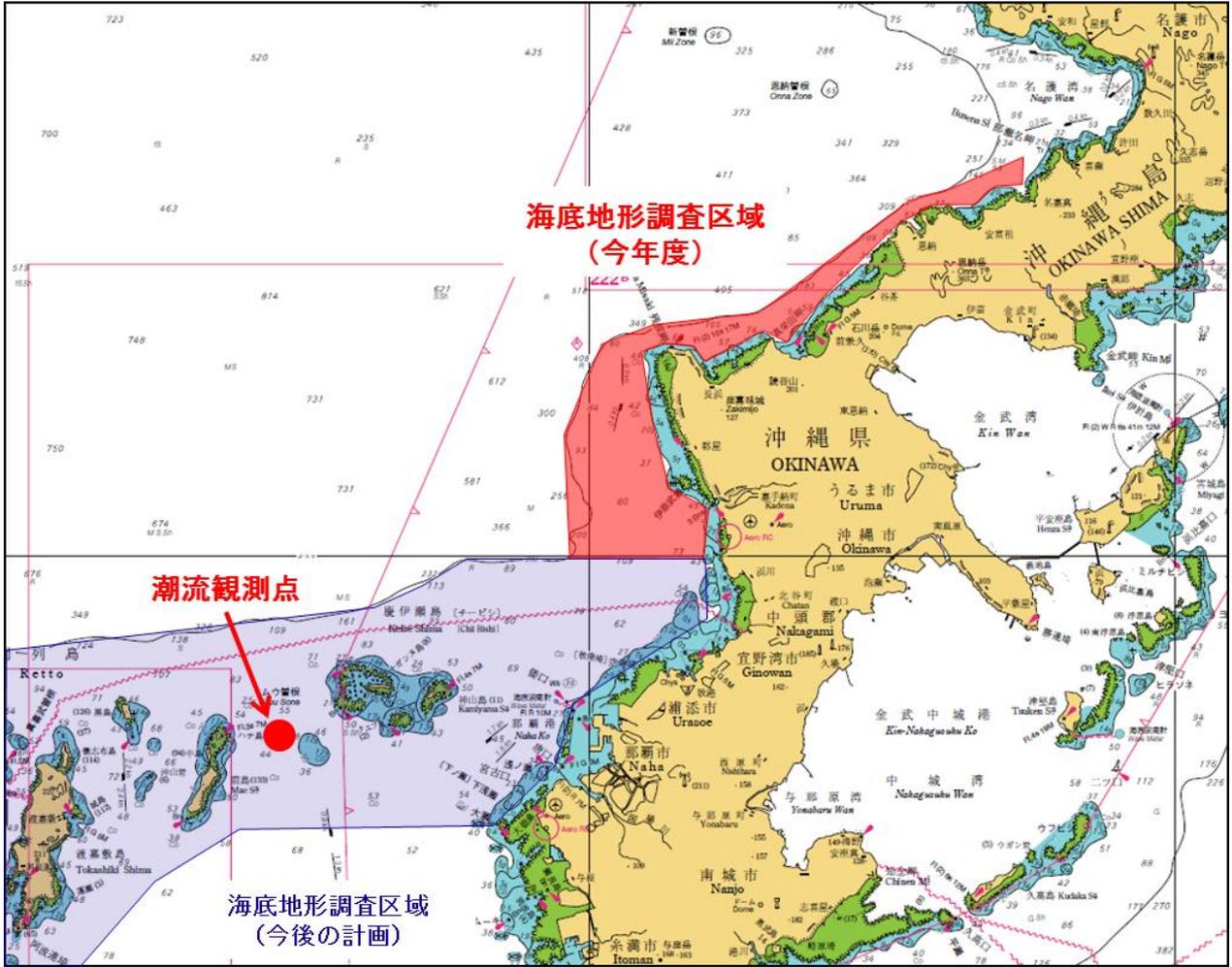
今年度は、恩納村から読谷村を経て嘉手納町までの、沖縄島西方海域の水深 200m より浅い海域の調査を実施します。本海域はマリンレジャーが盛んで、真栄田岬付近は多くの方がダイビングを楽しんでいます。このため、海岸に近い海域の海底地形調査を実施する際は、測量船を極低速で走行させるとともに、船首に見張りを配置してダイバーとの接触事故防止につとめます。海底地形調査中は、測量船に測量実施中であることを示す白赤白の燕尾旗を掲げていますので、見かけましたら調査へのご協力をお願いします。

今回の海洋調査の目的は、航海安全のための基盤的な情報として管理し、新たに発見した浅所は海図に反映していきます。本海域を隈無く調査するのは今回が初めてのため、これまで分からなかった詳細な海底地形を知ることができます。また、防災面においても、本調査で得られる詳細な海底地形は、予想される津波の高さなどの正確な予測に不可欠な情報になります。

潮流観測では、那覇港西方のチービシと前島間の海域に、流向流速計を約1ヶ月間設置して潮流の卓越した海域の潮流データを取得します。十一管区 HP で公開している「沖縄南部の流況概要」では、任意の日時の潮流を見られますが、ここに新たな情報点を追加します。

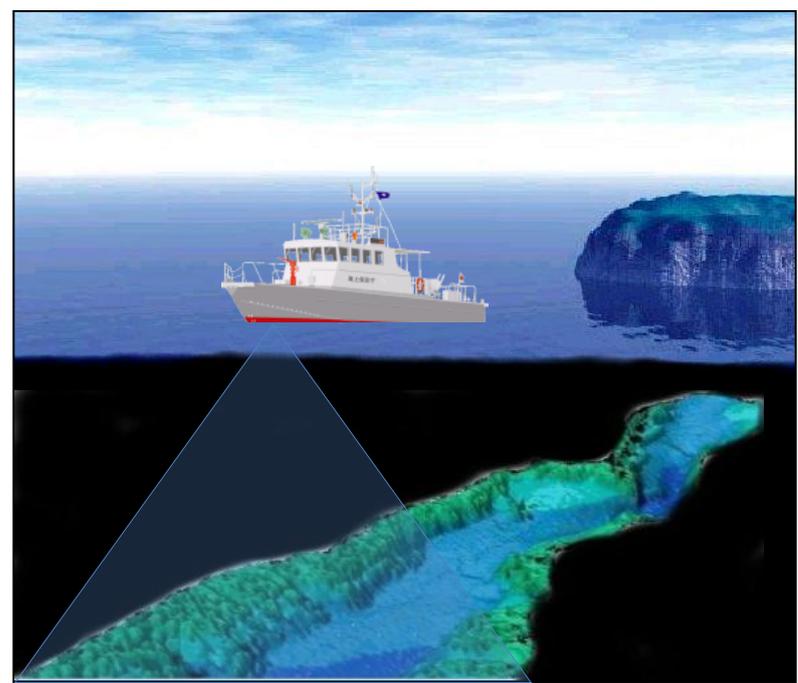
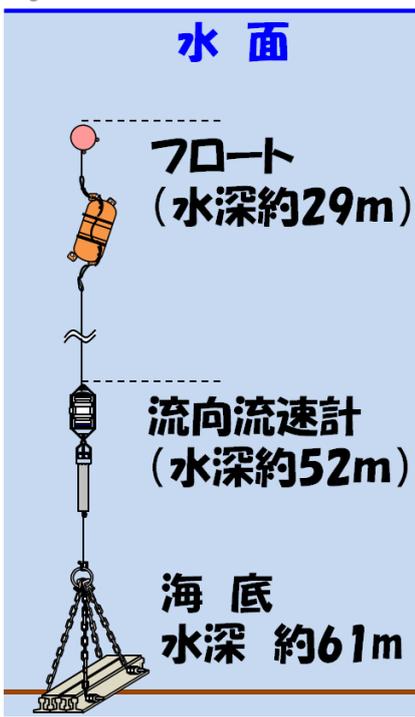
また、これらの調査データは、昨年3月に業務協力に関する協定を締結した沖縄科学技術大学院大学での海洋の研究に活用されるほか、今後の海洋の経済活動等において基盤的なデータとなります。

(海洋調査実施区域図)



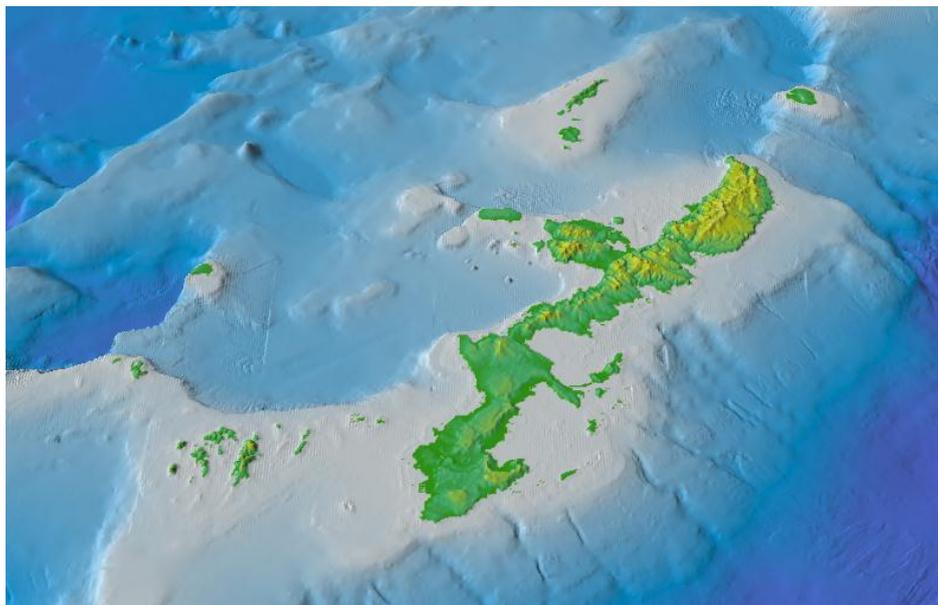
潮流観測(イメージ)

海底地形調査(イメージ)



## 沖縄周辺の海底地形図

5カ年計画の海底地形調査で詳細な地形データを取得する。



## 「沖縄南部流況概要」ホームページ表示例

これまでの潮流観測データを解析し予測計算したものです。任意の日時の潮流が分かります。



# 業務協力協定フロー

